

日本行動計量学会事務局

〒106-8569

東京都港区南麻布4-6-7

統計数理研究所 村上研究室

Tel & Fax 03-5421-8766

行動計量学会の国際化

心理測定学会国際大会（IMPS2001）の体験を通して

柳井晴夫

日本行動計量学会に共催して頂いた「心理測定学会国際大会(International Meeting of the Psychometric Society, IMPS2001)」が昨年7月15日から19日までの5日間大阪大学コンベンションセンターで開催された。1936年以降毎年アメリカ大陸で開催されている Psychometric Society (以下、PSと略記)の年次大会とは別にPSヨーロッパ大会が1981年よりヨーロッパの各国で隔年に開催されるようになり、今回の大会は第12回目のPSヨーロッパ大会に相当するものであったが、PS大会がアメリカおよびヨーロッパ大陸以外で始めて開催されたこと、および、PS大会に始めて国際大会という名称を冠することが許可されて開催されたことは、今回の大会開催の意義を特色づけるものであった。本大会開催時のPS会長は Adaptive Testing を専門とするアメリカの Dr. David Thissen (University of North Carolina) であったが、本大会開催のため組織委員会(委員長:柳井晴夫、副委員長:岡太彬訓、プログラム委員長:繁樺算男、大会実行委員長:狩野裕)を構成し、諸準備を進めた。なお、本大会は行動計量学会の他に、日本心理学会、日本統計学会、大阪大学人間科学部に共催、関連29学会に後援を依頼した。参加者は19ヶ国より313名(内日本人165名で行動計量学会会員が半数以上を占めた)で当初の予想を遥かに越えた盛会となり、アメリカから48名、オランダから40名、その他、近隣のアジア諸国からも、韓国、中国、台湾、インドからの参加があった。ご協力頂いた諸学会の関係各位、および参加頂いた行動計量学会会員各位には改めて御礼申し上げたい。PS会長を歴任した高根芳雄(マッギル大学)、西里静彦(トロント大学)、鮫島史子(テネシイ大学)の3氏、および「Behaviormetrika(以下、Bhと略記)」初代編集委員長印東太郎氏(カリフォルニア大学)など、これまで行動計量学会の発展にさまざまな形でご尽力いただいた先生方に参加頂けたことも喜ばしいことであった。プログラムとしては、2つの Key Note 講演、10の招待講演、5

つのシンポジウムと20の招待セッション、13の一般セッション、および、ポスターセッションと合わせて250近くの研究発表が行われた。内容としては因子分析、構造方程式モデル(共分散構造分析)、項目反応理論、テスト理論関連の研究発表が多くみられたことは最近の計量心理学の世界的動向を如実に反映している。大会終了後これらの研究発表を審査して本年12月までには Conference Volume を出版する予定で準備を進めている。

以上、巻頭言の紙面をお借りして、IMPS2001の内容を詳しく紹介したが、本稿のねらいである、表題に掲げた行動計量学会の国際化に話題を転じよう。現在、世の中のさまざまな事象においてグローバル化が進んでいる。最近注目を集めている身近な例がプロ野球の国際化であろう。分野は異なるが、学問の世界に共通して言えることは、同一のルールのもとで、競争に国境がない事であろう。プロ野球にあやかって、行動計量学会の国際化について二つの観点からの私見を述べよう。これまで、行動計量学会年次大会における特別講演者として海外の研究者を招致したことは古くは、第8回大会のクラスカル博士から、平成12年の東京大学大会におけるルビン博士など多数存在する。しかし、これをもう一步進め、外国から複数名の研究者をお招きし、ある共通テーマにもとづく、ワークショップなどを行った大会は皆無である。大会中、または大会とは別の時期に、このような国際ワークショップを開催することも考えられて良い。さらに、最近の航空運賃の大幅なディスカウントにより、韓国、香港、ハワイなどで、学会行事を開催することも可能になったといえよう。PS現会長の Stout 氏は、昨年のIMPS2001大会開催中に、私との会話の中で、今後、アメリカと日本の研究者数名を集めたワークショップ等を積極的に開催したいという希望を述べられたことを明記しておく。繁樺算男、狩野裕両氏の御尽力で、「Bh」の国際化はここ数年でかなり進展した。「Psychometrika」と「Bh」の目次の相互の印刷は、そ

の一つの成果であるが、最近では、海外からの投稿も増加傾向にある。日本人の投稿者の論文が掲載できなくなるから、海外からの投稿が増加するのは好ましくないという島国根性から脱却して、「Bh」を「Psych.」に匹敵する国際誌に成長させることは、行動計量学会の国際化にむけての、もうひとつの大きな目標となろう。学会の特に若い会員諸氏よ。20世紀に飛躍的發展を遂げた行動計量的方法のさらなる発展とその継承のために、他学会と協力して真のグローバル化を目指し改めて叡智と努力を結集されることを希望する。

(やないはるお、行動計量学会理事)

チュートリアルセミナー のお知らせ

下記要綱でチュートリアルセミナーを開催します。詳しい案内や申し込み受付はチュートリアルセミナーのホームページ

<http://www.ir.rikkyo.ac.jp/~kazunori/BSJ2002/>
をご覧ください。

題目：Latent Class and Finite Mixture Modeling With the New Latent GOLD Software

講師：Jeroen Vermunt (Tilburg University)

日時：2002年9月18日(水) 10:00-17:00 (昼休み11:45-13:00)

共催：多摩大学

内容：潜在クラス分析をはじめとした潜在変数を含む対数線形モデル用のソフトウェアである Lem や Latent GOLD の作者である Vermunt 氏が、カテゴリデータの分析方法や各種モデルについて容易に解説を行う。また、Lem や Latent Gold を使って具体的事例の分析を行い、その使用方法などについても解説する。取り上げる分析手法は、潜在クラス分析や因子分析、finite mixture regression analysis、latent segmentation analysis などである。(パソコンを使用した実習を行う予定。ただし、2名に1台のパソコン。各自ノートパソコンの持ち込みも可。)

場所：渋谷マークシティウェスト(オフィス棟)17F 西側(エレベータ降りて左手) ルネッサンスセンター

定員：50 名(先着順)

参加費：学生(含非会員学生)2,000 円、学会員 4,000 円、非学会員 9,000 円

(当日日本行動計量学会の入会申込をされた方は会員扱いとします。)

申し込み方法：

(1) ホームページ

<http://www.ir.rikkyo.ac.jp/~kazunori/BSJ2002/>

(2) E-mail

kyamagu@rikkyo.ac.jp

問い合わせ先：山口和範(立教大学)

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

立教大学社会学部産業関係学科

E-mail：kyamagu@rikkyo.ac.jp

第 30 回日本行動計量学会大会 テーマ「データを評価する」

期日：

2002 年 9 月 19 日(木)、20 日(金)、21 日(土)

会場：

大会 1 日目、2 日目(19 日(木)、20 日(金))：

多摩大学(多摩市聖ヶ丘)

大会 3 日目(21 日(土))：

ルネッサンスセンター(渋谷マークシティ West 17F)

申し込み方法：

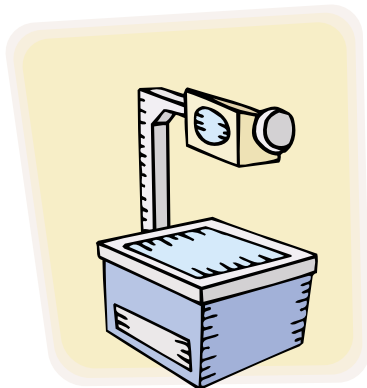
第 1 号通信同封葉書またはホームページより

発表申し込み締め切り：

2002 年 6 月 21 日(金)(必着)

皆様の参加／発表をお待ちしています。最新の情報についてはホームページを参照して下さい。

ホームページ <http://stat.tama.ac.jp/bsj2002/>



日本学術会議報告 2002.3.8

第4部会員 統計学研究連絡委員会（統計研連）委員長 吉村 功

第18期（来年7月までの3年間）学術会議は、学術についての日本からの発信という趣旨で、「日本の計画（Japan perspective）」の構想をまとめつつあります。また、「新しい学術の体系」を提起しようという作業も進めています。かなり長大な報告書が出ることになるでしょう。

それと平行して、学術会議のあり方と自己評価のやり方なるものが、国立の大学や研究機関の「改革」との一環で、昨年来議論されています。National Academyとしての終身会員制にしたかどうか、現在210名の会員を研連委員も含めた5000人くらいにしたかどうか、会合の成果、回数、出席率を自己評価したかどうか、等といった議論です。政府では「総合科学技術会議」を日本の学術政策の諮問組織としましたから、政治的には学術会議に大きな役割を持たせないつもりようです。このようなことは、学術会議の広報誌「学術の動向」（日本学術協力財団tel: 03-5410-0242）に折に触れ掲載されています。このような外局的なことはそちらに任せておいて、ここでは統計学研究者に関係の深いことを二つお知らせします。

1. 科研費についての変更

科研費の分科細目の変更が、「文部科学省の決定」ということで知らされました。前回も書きましたが、科研費補助金の「統計科学」は2003年度から、系が「総合・新領域系」、分野が「総合領域」、分科が「情報学」、細目が「統計科学」、細目番号が「1010」になります。関連するものでは、「経済統計学」が、「人文社会系」の「社会科学」の「経済学」の細目番号「3603」の細目となり、「数学一般」が、「理工系」の「数物系科学」の「数学」の細目番号「4103」の細目となります。今後は、審査員と申請がキーワード中心に分類されるということです。

このような分類の変更においては、申請件数の過去の実績が大きく影響しているということです。科研費の総額はかなり大きいので、申請経験の少ない方は、「どうせ当たらない」と思わず、過去に科研費を受けた経験のある人に申請のコツを教えてもらって、申請をする習慣を付けてください。特に、若い方は優遇されています。挑戦精神を発揮してください。審査員の総数が、約3000人になりますので、学会の役員の方はいつか一度は審査員になると思って

いてください。ちなみに、審査員には63歳以下、という年齢制限があります。

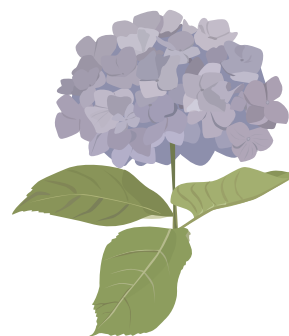
2. 統計学の位置

上で述べた科研費の分類変更は、学術体系全体の中での統計学の位置づけについて、外部がどう評価しているか、ということの一つの現れです。外部からのこのような位置づけは、たとえば統計数理研究所の将来構想にも反映してくるでしょう。統計学・統計科学は独立した一つの細目ではあるが、それを情報学の一部と位置づけて良いのではないか、というのが大きな流れとしての体制的な見方だと考えてください。自分は統計学・統計科学という分野で重要な仕事をしているという自負をお持ちの方は、このような位置づけを受け入れて然るべきかどうかという自問を行い、井戸の中、温室の中で悠々自適しているだけでなく、他の分野の人に自らの仕事の内容を提示し、外部評価を受けてみて下さい。

他の分野の方々との折衝や議論の中では、しばしば、統計学が非常に古いものとして受け取られていることを感じます。それは統計家が、新しさを他に感じさせていないことの現れではないかと思います。

統計研連では、昨年10月、今年の1月、3月と会合を開き、関連学会の代表者の方に集まっていたりして、統計科学連合結成の可能性を議論しています。私はこれを、内部問題としてではなく、外部との関係において必要だと考えています。各学会においても、外部の他の分野あるいは体制の中で統計学・統計科学が存在を主張するためには連合が必要ではないか、という問題意識を持って「統計科学連合」という構想を検討していただきたいと思います。

毎回言っていることですが、この報告は私が個人的に、統計関連学会の皆さんにお知らせした方がよいと感じているところだけを、主観的に書いているものです。問題の取捨選択が多少偏っているのはお許し下さい。



2001年度小グループ研究会 活動記録

好みの計量研究会

代表者：芳賀（真柳）麻誉美

- <第1回研究会> 3月2日（金）
林俊克「ワインのお客さま価値に関する調査」
廣野元久「グラフィカルモデリング」
- <第2回研究会> 5月18日（金）
上野佳奈子「ホールステージ音上における演奏者評価」
真柳麻誉美「牛乳の嗜好の情報・言葉の効果測定」
- <第3回研究会> 7月6日（金）
若林直子「防災意識についてのアンケート調査」
小島隆矢「雲仙普賢岳復興フェスティバルでのインタビュー調査」
真柳麻誉美「チーズの試食感想文の解析」
- <第4回研究会> 8月24日（金）
今井雅浩「品質管理概論」
高橋弓子「品質管理の一つの位置付けとしてとらえたブランドロイヤリティを考慮した購買意欲」
星野崇宏「顔の情動評定の個人差について」
- <第5回研究会> 10月22日（月）
鈴木督久「選挙予測調査と解析」
谷口麻子「カフェ・オレの官能評価データの解析～QDAデータの活用」
- <第6回研究会> （合宿）11月11日（日）～12日（月）
真柳麻誉美「バニラアイスの選好に対する情報の効果」
林俊克「DIONISOSとVACCASを使ったテキストマイニング事例～資生堂での応用について」
水野誠「潜在クラス・ロジット分析とGAによる選択ルール発見2」
水野誠「カフェオレの官能評価データへの応用」
小島隆矢「トイレ施工に対する満足度構造と個別商品評価を探る」
丸山玄「水族館来訪動機を探る評価構造を使った設計実例案」
- <第7回研究会> 1月18日（金）
椿広計「構造モデルが測定モデルに影響を与えて良いのか？」
星野崇宏「如何にこの問題を解決するか」

- <第8回研究会> 2月27日（水）
方波見麻紀「ブランドの知覚品質が使用感と態度に与える影響について～化粧品のケース」
上野佳奈子「ホールステージの設計と演奏者評価」
- <第9回研究会> 3月29日（金）
黒木学「総合効果推定のための変数選択アルゴリズム」
廣野元久「調査データへの対数線形グラフィカルモデリングの適用」
- <成果発表> 第29回日本行動計量学会大会
9月14日（金）「好みのマーケティング」セッション
9月15日（土）「好みの計量」セッション
上記2セッションで計12演題の報告を行った。

糖尿病栄養教育評価に関する研究会

- 研究会発足（4月）
研究会名称の決定：糖尿病栄養教育評価に関する研究会
研究会代表者の決定：渡辺満利子（昭和女子大学・短大）
参加予定人数：渡辺満利子・横塚昌子・小倉史子・釜島智美（昭和女子大学・短大）丹後俊郎（国立公衆衛生院疫学部）
研究会趣旨、目的の決定：糖尿病予防、進展阻止のために栄養教育は重要な取り組みの1つであるが、それを効果的に行うことは難しく、わが国でその有効性を実証的に検討したものはほとんどない。本研究会の趣旨は、糖尿病の効果的栄養教育の方法と実践・評価について、Evidence Based Medicine（EBM）の観点からの実証的な検討を行った上でそのモデル化を図ることである。
そこで、本研究会では、FFQW65（山岡, 丹後, 渡辺, 他, 2000）を用いて境界型に対する介入研究を行い、栄養教育の効果に関するEBMの考え方に基づく実証的な評価を行うことを目的とする。
- 研究実施方法検討会開始（5月）
 - FFQW65 回答・分析・フィードバック行程の検討会
 - FFQW65 栄養教育マニュアルの検討会
 - FFQW65 栄養教育に関しての栄養教育担当者の教育検討会

- 3) 介入研究の実施に関する検討会 (5 月)
 - (1) 調査対象
 - (2) 調査内容
 - (3) 調査方法
 - (4) 分析方法等
- 4) 実施状況検討会 (7 月)
 - (1) 調査票回収時に関する検討
 - (2) 対象者のプログラム参加に関する検討
- 5) 中間報告会 (10 月)
 - (1) 不受診者の動向調査に関する検討
- 6) 統計的分析及びまとめ
- 7) 報告書作成 (平成 14 年 2 月)
- 8) 本年度の総括 (平成 14 年 3 月)

計量社会学研究会

代表 村瀬洋一

社会科学的データの計量分析や計量社会学に関する各自の最新の研究成果を発表し、討論を行った。3 月は、活動補助金を用いて遠方から発表者を招き、研究上の交流をすることができた。各回の発表者と内容は以下の通り。

3 月 18 日 (月)

発表者 同志社大学 尾嶋 史章

発表タイトル 「計量的モノグラフー計量分析の位置付け再考」

「計量的モノグラフ」とは、問題発見的な視点を持ちつつ、得られた経験的知見を整序化し、統合化していく試みである。計量的モノグラフが目指すのは「歴史的過程」を正確に把握することである。著書『高校生の計量社会学』では、得られた情報を「全体として」解釈することを目指した。結論として、個別変数間 (多指標のものも含む) の関連、因果モデルのみの検討ではなく、多様な変数間の関連パターンを見た上でしか、理論の検証もできないのではないかというのが、発表者の意見である。

10 月 20 日 (土)

発表者 東京都立大学 石田 光規

発表タイトル 「地位達成における社会的資本の効果ー同類原理の検討」

社会的資本の地位達成機能については、日本においては転職における同類原理の効果が指摘されたのみであり、解明されていない部分が多い。本研究は社会的資本を諸個人のディスカッション・ネットワークから把握し、その機能を明らかにした。その結果、日本におけるネットワー

クの地位達成機能については、同類原理よりもむしろ、関係を結ぶ場、すなわち職場関係であることが明らかになった。

8 月 25 日 (土)

発表者 お茶の水女子大学 村尾 祐美子

発表題目 「役職獲得の規定要因ージェンダー計量の試み」

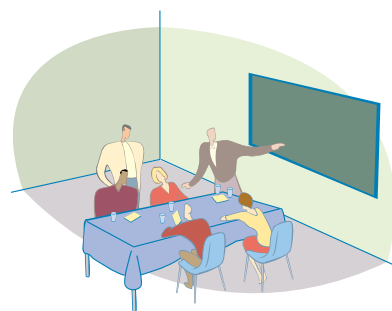
本研究の目的は、男女間の非対称な関係性 (=「関係性としてのジェンダー」) が常雇被雇用者の役職獲得過程に及ぼす効果を検討することである。そこで、1995 年 S S M 調査データを用いてイベント・ヒストリー分析を行った。その結果、常雇被雇用者全体では、男女間の非対称な関係性を「関係としてのジェンダー」は見出されず、女性との関係性において、男性が決して一枚岩的な存在ではないことが示された。また一方で、一部の男性被雇用者の役職獲得確率の規定要因には、女性との関係性が含まれており、社会的資源分配の規定要因として「本人の生産性」「職の性質」を考慮するだけでは不十分であり、男性のみを対象とした分析においても、男女の関係性を重要な要因として考慮すべきことが明らかになった。

7 月 31 日 (火)

発表者 立教大学 村瀬 洋一

発表題目 「社会意識の構造と閉塞感ー S S M データによる不公平感の内容の解明」

本研究は、1995 年 S S M 調査 (社会階層と社会移動全国調査) データを用いて、不公平感の具体的な内容をいくつか提示し、日本人の社会意識の構造が、地域によって大きく異なることを明らかにした。分析の結果、農村部では、社会不公平感と閉塞感の位置が近かった。それに対して都市部では、不公平感と、私生活満足が同じ位置にある。また反平等志向が不公平感と密接に関連していた。ただし現在でも、単純集計レベルでは平等志向 (再分配政策を求める志向) は強いことが明らかになった。



2001 年度春の合宿セミナー報告

成蹊大学工学部 岩崎 学

毎年恒例となった春の合宿セミナーの第 5 回目が、気の早い桜も満開の 2002 年 3 月 21 日午後から、22 日夕刻の 1 日半に渡り、宿泊室も備えた研修施設の安田生命アカデミア（東京都府中市）を会場に開催された。今回のセミナーでは、新しい試みとして 5 名の方々にグループリーダーをお願いし、それぞれのリーダーの基調講演の後、グループごとに分かれた勉強会の形式でセミナーを実施した。各グループリーダーのお名前およびグループごとの研修テーマは以下のようであった。

岩崎 学（成蹊大）

「処置前－処置後データと平均への回帰」

岡太彬訓（立教大）

「実践 MDS とクラスター分析」

狩野 裕（大阪大）

「反復測定データの分析」

繁樹算男（東京大）

「因果関係の分析」

村上 隆（名古屋大）

「質問紙による心理尺度構成の概念と方法」

セミナー参加者は、施設での宿泊者が 36 名、通いで参加者も同じく 36 名の計 72 名と企画担当者の当初の予想をはるかに上回る人数であった。第 1 日目の基調講演およびグループごとの研修後の夕食時ならびに懇親会の間でも、参加者の皆さんそれぞれに交流する姿があった。2 日目も昼食をはさんで朝 9 時半から午後 5 時まで熱心に研修が行なわれた。

今回のセミナー会場の安田生命アカデミアは、セミナー会場、宿泊室、食堂をはじめとする建物全体がゴージャスカつ新しく、参加者の皆さんにお願いしたアンケートでも評判は上々であった。また、アンケートにも「参加してよかった」との声が多くあり、これも偏にグループリーダーの皆さんのおかげと企画担当者としては胸をなでおろしている。2002 年度は立教大の岡太彬訓教授の担当で第 6 回目が開催の予定である。

最後ではあるが、本セミナーでの製品の展示を通じ協賛金を賜った数理システム及び SPSS の 2 社に感謝します。

運営委員会からのお知らせ

2002 年度小グループ研究会・地域部会 応募結果

★ 2002 年度小グループ研究会として次の研究会が採択されました（2 年間）。

「好みの計量研究会」

代表：芳賀麻誉美

連絡先：〒 350-0288 埼玉県坂戸市千代田 3-9-21

女子栄養大学 食品学第一研究室

電話：0492-82-3710

e-mail：mayanagi@eiyo.ac.jp

★ 2002 年度地域部会として次の 2 つの部会が採択されました（4 年間）。

「東北行動計量学研究会」

代表：海野道郎

連絡先：〒 980-8576 仙台市青葉区川内

東北大学大学院文学研究科 行動科学研究室

電話：022-217-6035

e-mail：umino@sal.tohoku.ac.jp

「岡山部会」

代表：森 裕一

連絡先：〒 700-0005 岡山市理大町 1-1

岡山理科大学総合情報学部社会情報学科

電話：086-256-9652

e-mail：mori@soci.ous.ac.jp

第 7 2 回行動計量学シンポジウム 報告

題目 行動計量学からの政策提言

日時 2002 年 3 月 20 日（水）

午後 2：00～4：30

場所 東洋英和女学院大学 六本木校舎 301 教室

本シンポジウムはとかく行動計量学が「手法の学問」と考えられがちな現状に対応し、現実問題への適用研究を考えるという趣旨で開催したものである。日程の問題があり、参加者は少数にとどまったが、現実問題への適用研究の評価という問題まで踏み込んだ議論が行なわれた。会場確保等でご支援をいただいた林文氏に感謝したい。

データ解析コンペティション

立教大学社会学部 岡太 彬訓

ここでご紹介する「データ解析コンペティション」は、参加チームが、学会から与えられた共通のデータを分析し、分析結果を競うものです。いくつかの学会で、同様な活動が行われているのではないかと思います。ここでは、日本オペレーションズ・リサーチ学会のマーケティング・エンジニアリング研究部会で行っているデータ解析コンペティションについて、概要をご報告させていただきます。部会では1999-2001年度の主査を務めておりましたこともあり、本学会でのデータ解析コンペティションの可能性について、多少なりとも参考になるかと考えて、紙面を頂いた次第です。

データ解析コンペティションの活動は1年度単位で行っています。解析するデータが決まったら、5月頃から2、3回そのデータに関連する話題について、専門家を招いて話を聞き、参加チームを募集します。夏休み前後に参加各チームにデータを配布し、9月末頃から参加各チームによる発表となります。データは、現実の比較的新しいデータで、昨年度は、あるスーパー・マーケットの2000年4月-10月の来店客約14,000人（年齢、性別、住所などが分かっている）の購買履歴（購買日、購買品目など）でした。各チームは、中間報告と最終報告の2回発表します。最終報告をもとに優秀チームを表彰（トロフィー授与）し、優秀チームによる成果報告会を3月中旬に行っています。成果報告会には100人以上が参加し、賑やかにデータ解析コンペティションの終了となります。昨年度は23チームが参加しました。研究会は、大体7PM-9PMで、1回の研究会で4チームが発表しますので、研究会の回数もかなりになります。参加人数は50人-60人です。

昨年度のデータ解析コンペティションは、マーケティング・エンジニアリング研究部会としては3回目ですが、前身のマーケティング・サイエンス研究部会とマーケティング・モデル研究部会から通算して7回目になります。参加チームも増えていますが、データ量の増え方は、さらに顕著で、当初はフロッピー・ディスク1枚で配布していたデータが、データの量が増えるにつれて、2枚になり、更にCDで配布されるようになる、という具合です。POSデータなど、膨大なデータが比較的簡単に収集できるようになったことが実感できます。

優秀チームを選ぶための基準は、例えば、データに基づいて予測した市場占有率と現実の市場占有率との差、というような客観的な場合もあれば、現実のマーケティングでどの位役に立つのか、開発した

新しい手法の有効性、などやや主観の入る場合もあり、さまざまです。

データ解析コンペティションを継続する上で最大の難関は、データの確保で、これが毎年最大の悩みとなります。また、データの量が増加すると、事前にある程度データを加工しておく必要があり、この手間も、データ量の増加につれて年々大きくなっています。企業などから利用を許可されたデータですので、その取り扱いに注意を払う必要があり、参加チームには「データの取り扱いについての注意事項」を配り、チームの責任者にはデータの取り扱いについての誓約書を提出して貰っています。このような活動を続けるためには、データの確保が大変重要であり、データの取り扱いをおろそかにすると、今後のデータの提供に悪影響を及ぼす恐れがあります。データの提供に使用したCDは回収しています。

今年度からは、マーケティング・データ解析研究部会として、引き続き立教大学で開催いたします。実社会のデータに触れるよい機会ですので、ご興味のある向きは、是非一度お出で頂ければと思います。お問い合わせは、岡太（okada@rikkyo.ac.jp）までお願いいたします。また、過去のデータ解析コンペティションについての特集が、以下のオペレーションズ・リサーチ誌に掲載されております。ご一読下されれば幸いです。

日本オペレーションズ・リサーチ学会
「オペレーションズ・リサーチ」

1995年9月号、2000年12月号、2002年2月号



関連学会等カレンダー

※注意：本コーナーの情報は、幅広い専門分野にわたる会員の皆さまに、なるべく多くの催し物の存在をお知らせするために編集担当側で収集・要約したものです。プログラムや参加方法については、必ず各催事末尾に掲載の「照会先」にご確認下さい。照会先は会場となる機関とは別の場合も多いのでご注意ください。

<学会大会等>

☆ 日本人間工学会第43回全国大会

会 期：2002年6月1日（土）～3日（月）
会 場：広島国際大学
（広島県賀茂郡黒瀬町学園台555-36）
照会先：大会事務局（宮崎、出木原、糸川）
〒724-0695 広島県賀茂郡黒瀬町学園台555-36
広島国際大学人間環境学部感性情報学科内
Tel: 0823-70-4893, Fax: 0823-70-4852（人間環境学部事務室）
E-mail: jes02@he.hirokoku-u.ac.jp
URL: <http://www.hirokoku-u.ac.jp/int/kansei/~jes02/>

☆ 日本認知科学会第19回大会

会 期：2002年6月14日（金）～16日（日）
会 場：いしかわサイエンスパーク内石川ハイテク交流センター（北陸先端科学技術大学院大学）
（石川県能美郡辰口町旭台1）
<http://www.jaist.ac.jp/index-jp.html>
照会先：認知科学2002事務局
〒923-1292 石川県能美郡辰口町旭台1-1
北陸先端科学技術大学院大学
E-mail: jcsc2002-qa@jaist.ac.jp
Fax: 0761-51-1149, Tel: 0761-51-1741（下嶋 篤）

☆ 第10回全国老人ケア研究集会

会 期：2002年7月13日（土）
会 場：広島国際会議場（〒730-0811 広島市中区中島町1-5 平和記念公園内, Tel: 082-242-7777）
照会先：「全国高齢者ケア協会」事務局
〒169-0075 新宿区高田馬場1-16-37 富士ハイツ1-A
Tel & Fax: 03-3204-2695
E-mail: info@care-k.net
URL: <http://www.care-k.net>

☆ 第34回日本医学教育学会大会

会 期：2002年7月26日（金）、27日（土）
会 場：昭和大学・上條講堂（東京都品川区旗の台）
照会先：昭和大学医学部教務部
Tel: 03-3784-8022, Fax: 03-3784-8021
E-mail: med-edu@med.showa-u.ac.jp
学会 URL: <http://jsme.umin.ac.jp/>

☆ 第28回日本看護研究学会学術集会

会 期：2002年8月8日（木）、9日（金）
会 場：パシフィコ横浜
（横浜市西区みなとみらい1-1-1）
大会長：池田明子（北里大学看護学部）
メインテーマ：Linkage リンケージ
照会先：第28回日本看護研究学会学術集会事務局
〒228-0829 相模原市北里2-1-1
北里大学看護学部内
Fax: 042-778-9814
E-mail: kenkyu28@nrs.kitasato-u.ac.jp
URL: <http://www.nrs.kitasato-u.ac.jp/linkage/>

☆ 日本応用心理学会第69回大会

会 期：2002年9月7日（土）、8日（日）
会 場：東京富士大学（東京都新宿区高田馬場3-8-1）
照会先：大会準備委員会（委員長 岡村一成）
E-mail: jaap2002@fuji.ac.jp
URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/jaap/>

☆ 2002年度統計関連学会連合大会

会 期：2002年9月7日（土）～10日（火）
会 場：明星大学大会館
（東京都日野市程久保2-1-1）
関連学会：日本統計学会（第70回大会）、応用統計学会（2002年度年次大会）、日本計量生物学会（2002年度年次大会）の3学会の合同年會
内 容：チュートリアル（9/7）、一般講演、共通テーマによるセッション他
共通テーマ・タイトル：「官庁統計利用の現状と課題」、
「Computer-intensive Methods」、「極値統計学とその応用」、
「ウェーブレットと統計解析」、「遺伝統計学」、「実験計画法とその応用」、
「空間データの解析」、「漸近分布論の現代的意味」
照会先：大会実行委員会
URL: http://www.hino.meisei-u.ac.jp/ri_grad/toukei.html
E-mail: m_quest@jss.gr.jp
他、関連学会のWeb Pageなどを参照。
日本統計学会: <http://www.jss.gr.jp/>
応用統計学会: <http://www.applstat.gr.jp/>
日本計量生物学会: <http://www.soc.nii.ac.jp/jbs/>
※関連する催し：9/8同時開催市民講演会「温故知新」。
また9/11日本分類学会シンポジウムが開催予定。
いずれもシンポジウム・講演会等の欄に別掲。

☆ 第4回日本感性工学会大会

会 期：2002年9月12日（木）～14日（土）
会 場：文化女子大学新都心キャンパス
（JR 新宿駅南口徒歩7分）
テーマ：「感性で創出せよ！」
照会先：日本感性工学会事務局
〒104-0045 東京都中央区築地4-12-2
ライオンズマンション東銀座1005
E-mail: jske@jske.org
<http://www.jske.org/>

<シンポジウム・研究集会・講演会等>

☆ 「統計的モデルとその応用に関する研究」

(科研費基盤研究(A)(1)「統計科学における予測の可能性と限界に関する研究」による研究集会)

日 時: 2002 年 6 月 13 日 (木), 14 日 (金)

会 場: 函館市市民会館大会議室

(函館市湯川町 1-32-1, Tel: 0138-57-3111)

内容・目的: 統計的モデルの同定に関する諸問題の研究, およびモデルを実際に適用する場合でのモデルの評価に関する研究等について発表・討論を行う。

照会先: 北海道大学大学院工学研究科

情報解析学分野 桜井裕仁

〒 060-8628 札幌市北区北 13 条西 8 丁目

E-mail: sakurai@main.eng.hokudai.ac.jp

Tel: 011-706-7160, Fax: 011-706-7840

URL: <http://isw.main.eng.hokudai.ac.jp/~sakurai/kaken/index.html>

☆ 日本感性工学会特別研究大会

「21 世紀のちいきデザイン in 佐渡」

日 時: 2002 年 6 月 28 日 (金) ~ 30 日 (日)

会 場: アミューズメント佐渡

(新潟県佐渡郡佐和田町)

<http://www.town.sawata.niigata.jp/amusement.htm>

照会先: 大会事務局

東京工業大学大学院社会理工学研究科 桑子研究室

〒 152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1

Tel & Fax: 03-5734-3256

E-mail: kuwako@valdes.titech.ac.jp (桑子敏雄)

usuki@valdes.titech.ac.jp (臼木悦生)

URL: <http://www.jske.org/conf/sado02/>

☆ 日本教育心理学会公開シンポジウム

「新教育課程における学習とその支援

ー教育心理学から見た新しい授業のあり方ー」

日 時: 2002 年 8 月 26 日 (月) 10:00 ~ 16:00

会 場: 日本教育会館一ツ橋ホール

(東京都千代田区一ツ橋 2-6-2)

内 容: 第 1 部: 講演 (午前中), 第 2 部: シンポジウム (午後)

照会先: 日本教育心理学会事務局

Tel: 03-3818-1534, Fax: 03-3818-1575

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaep/>

☆ 「第 5 回情報論的学習理論ワークショップ」

(Information-Based Induction Sciences: IBIS2002)

日 時: 2002 年 9 月 8 日 (日) ~ 9 月 10 日 (火)

会 場: ホテルエバークグリーン富士

(山梨県富士吉田市上吉田 4658-1)

<http://www1.odn.ne.jp/kawaguchiko/fuji.htm>

主 催: 電子情報通信学会 情報論的学習理論時限研究専門委員会

共 催: 情報理論とその応用学会

内 容: 3つのオーガナイズドセッション(「カーネル設計の理論と応用」「不完全データの問題」「Webマイニングと統計的自然言語処理」と一般セッション

照会先: 実行委員長 早稲田大学理工学部 村田 昇

〒 169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1

Tel & Fax: 03-5286-3383

E-mail: ibis-general@murata.elec.waseda.ac.jp

URL: <http://www.murata.elec.waseda.ac.jp/ibis2002/>

☆ 2002 年度統計関連学会連合大会市民講演会

「ふるきをたずねて新しきを知る

ー統計学で温故知新ー」

日 時: 2002 年 9 月 8 日 (日) 15:00 ~ 18:00

会 場: 明星大学シェイクスピアホール

主 催: 日本統計学会, 応用統計学会, 日本計量生物学会

共 催: 明星大学

後 援: 日本分類学会

内 容: 講師と演題: ●岩崎 学 (成蹊大学)「開会の挨拶ーこんなところにも「統計」が!」●竹田正幸 (九州大学)「文学作品におけるデータマイニング」●村上征勝 (統数研)「コンピュータで探る名作の謎ーシェイクスピア作品,『静かなるドン』,『源氏物語』を中心に」

照会先: 2002 年度統計関連学会連合大会

URL: http://www.hino.meisei-u.ac.jp/ri_grad/toukei.html

E-mail: m_quest@jss.gr.jp

☆ 日本分類学会シンポジウム

(2002 年度統計関連学会連合大会関連企画)

日 時: 2002 年 9 月 11 日 (水) 10:00 ~

会 場: 東洋英和女学院大学 (仮)

主 催: 日本分類学会

共 催: 日本行動計量学会 (予定)

内 容: 一部未定につき今後 Web Page などで随時案内

照会先: 日本分類学会事務局 (統計数理研究所気付)

URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcs/>

Fax: 03-5421-8796

学会幹事長 林 文 (東洋英和女学院大学)

E-mail: fumih@toyoeiwa.ac.jp



公募・求人情報

本コーナーでは計量的手法や統計学と関係が深いと思われる公募を中心に紹介します。なお、研究者の公募情報は、例えば「研究者人材データベースシステム (JRECIN)」で参照することができます。URLは下記の通りです。ご活用をお勧めします。

<http://jrecin.jst.go.jp/>

JRECINのキーワード検索でヒットした公募等の件数(5月上旬の数字)は、「行動」で11件、「計量」で5件、「測定」で8件、「統計」で12件、「数理」で19件、「社会学」で14件、「社会調査」で2件、「政治学」で9件、「心理学」で22件、「認知」で8件、「マーケティング」で3件、「看護学」で30件、「保健学」で11件、「公衆衛生」で2件、などでした。

以下の公募は、応募期限の早い順に並んでいます。応募資格等、公募情報の詳細については、公募元にご確認下さい。ただし、以下には上記JRECINに含まれていない公募情報も掲載されている場合があります。

☆ 京都大学東南アジア研究センター

公募人員：教授1名
所属部署・専門領域：政治経済関連研究部門地域統合分野
着任時期：2002年10月1日
応募期限：2002年6月10日
照会先：〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46
京都大学東南アジア研究センター等庶務掛長
Tel: 075-753-7302, Fax: 075-753-7350
E-mail: shirahase@cseas.kyoto-u.ac.jp

☆ 筑波大学社会工学系

公募人員：助教授または講師1名
専門領域：経済行動と心理学(経済学と心理学の境界領域に係わる教育・研究ができること)
着任時期：2003年4月1日
応募期限：2002年6月10日
照会先：〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学社会工学系 教授 中村 豊
E-mail: nakamura@sk.tsukuba.ac.jp
Tel: 0298-53-5547, Fax: 0298-55-3849
URL: <http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~nakamura>

☆ 青山学院大学経営学部

公募人員：教授、助教授、専任講師のいずれか1名
専門領域・担当科目：マーケティングにおける製品とブランドのマネジメントに関連する科目の担当者
着任時期：2003年4月1日
応募期限：2002年6月10日
照会先：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
青山学院大学学務部教務課経営学部担当
Tel: 03-3409-8111, Fax: 03-3409-4575

☆ 立命館大学経済学部

公募人員：教授または助教授(専任講師の場合もありうる)1名
専門領域・担当科目：計量経済学(数理統計学関連科目も担当可能であること)
着任時期：2003年4月1日
応募期限：2002年6月14日
照会先：〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学教務センター・経済学部
担当：間部(まなべ)・陌間(はざま)
Tel: 077-561-3940
<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/koho/headline/info/saiyou/index-j.htm>

☆ 日本女子大学理学部

公募人員：助教授または教授1名
所属：数物科学科(数理分野)
専門領域・担当科目：統計学又はORなどの応用数学を研究しており、情報統計学、統計解析、計画数学の講義を担当可能な方。
応募資格：博士の学位を有し、大学院での指導が可能な方。着任時36才ー48才。
着任時期：2003年4月1日
応募期限：2002年6月15日(消印有効)
照会先：日本女子大学理学部数物科学科長 栗原 章
〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1
Tel: 03-5981-3637(栗原),
03-5981-3636(数学研究室)
E-mail: kurihara@fc.jwu.ac.jp

☆ 北海道大学大学院文学研究科

公募人員：助教授または教授1名
所属：心理システム科学講座
専門領域・担当科目：認知領域を中心とした心理学、認知科学などを専門とされる方。
担当授業科目：学部(1年次学生への全学教育を含む)および大学院における心理学の講義、演習、実験実習、研究法等。
着任時期：2003年4月1日
応募期限：2002年6月28日
照会先：〒060-0810 北海道札幌市北区北10条西7丁目 北海道大学大学院文学研究科心理システム科学講座 講座主任 田山忠行
E-mail: tayama@psych.let.hokudai.ac.jp
Tel: 011-706-4199

☆ 松山大学人文学部

公募人員：講師、助教授または教授1名
専門分野・担当科目：「社会心理学」及び「マスコミュニケーション論」を担当できる方。また、「社会調査実習」も担当できることが望まれる。
着任時期：2003年4月1日
応募期限：2002年10月11日
照会先：〒790-8578 愛媛県松山市文京町4-2
松山大学人文学部 教授 松井茂樹
E-mail: matsui@gc.matsuyama-u.ac.jp
(照会は書簡またはE-mailに限る。)

会員の著書等

- ☆ 青柳 領「スポーツ統計学概論」九州大学出版会, 2002 年.
- ☆ 藤井光昭・柳井晴夫・荒井克弘(編著)「大学入試における総合試験の国際比較—わが国の入試改善に向けて—」多賀出版, 2002 年.
- ☆ 林 文・山岡和枝「調査の実際—不完全なデータから何を読みとるか—」朝倉書店, 2002 年.
- ☆ 伊藤正義・伊藤公紀「わかりやすい数理統計の基礎」森北出版, 2002 年.
- ☆ NHK放送文化研究所(編)「日本人の生活時間・2000—NHK国民生活時間調査—」NHK出版, 2002 年.
- ☆ 野崎昭弘他「統計・確率の意味がわかる—数学の風景が見える—」ベレ出版, 2001 年.
- ☆ 丹後俊郎「メタ・アナリシス入門—エビデンスの統合をめざす統計手法—」朝倉書店, 2002 年.
- ☆ 豊田秀樹「項目反応理論 [入門編] —テストと測定の科学—」朝倉書店, 2002 年.
- ☆ 渡部 洋(編著)「心理統計の技法」福村出版, 2002 年.



入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

〒 113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL : 03-5814-5810
FAX : 03-5814-5825

日本行動計量学会会員数

(2002 年 4 月 1 日現在)

正会員	1032 名
準会員	84 名
名誉会員	6 名
賛助会員	17 社

日本行動計量学会 Web ページ

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/bsj/index.html>

日本行動計量学会 第 30 回大会

<http://stat.tama.ac.jp/bsj2002/>

学会誌論文投稿先

学会で発表された研究などを、できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

和文誌「行動計量学」

〒 226-0015 横浜市緑区三保町 32
東洋英和女学院大学 人間科学部
林 文
TEL: 045-922-5511 (代表)
045-922-7264 (研究室直通)
FAX: 045-922-6642 (共用)
e-mail: fumih@toyoeiwa.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒 565-0871 吹田市山田丘 1-2
大阪大学人間科学部
日本行動計量学会欧文誌編集委員長
狩野 裕

編集後記

皆様、第 30 回大会への参加・発表申し込みはお済みでしょうか。参加費を事前振込されますとお得です。また、大会前日には、チュートリアルセミナーもごございますので、こちらの方へもぜひ参加をご検討ください。

今号を作成するにあたり、会員の方々から、いろいろな情報をいただきました。会員の方が出版された著書や、関連学会の大会、シンポジウムの案内など、会報に掲載すべき記事がございましたら、ぜひとも情報をお寄せください。なお、会報原稿送付先が変更になっておりますので、ご注意ください。

会報原稿送付先 (変更になりました)

皆様からの情報をお待ちしております。
 〒 274-8510 千葉県船橋市三山 2-2-1
東邦大学理学部情報科学科
菊地賢一 kikuchi@is.sci.toho-u.ac.jp
TEL & FAX: 047-472-1182

題字：林知己夫

会報作成担当：菊地賢一・前田忠彦・西山悦子